

いとすぎの丘



日本赤十字豊田看護大学
Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

Vol.10

発行日／2009年10月



いとすぎ祭

■ Campus Life 2009

○第6回いとすぎ祭

万人へ受け入れられる世界へ 3年 松山公詩 体育祭を終えて 3年 神森友紀奈

○イギリス語学研修

文化のシャワーを存分に浴びた私のイギリス研修旅行 3年 妹尾綾子

○第42回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式

第42回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に参加して 3年 大門美咲

■ 大学の活動

○特別講演会

ジェーン・フィッシャー氏 特別講演会

Jane先生の講演会を聴いて

川嶋みどり先生の特別講演を聴いて

教授 竹中 美

3年 天木麻奈実

学部長 野口 真弓

○オープンキャンパス2009

■ 公開講座2009

○平成21年度公開講座「高齢者の誤嚥について」

講師 小林 尚司

○公開講座のご案内（10月～3月）

○Academic Library 村地文庫

図書館司書 中尾 明子

○研究の窓 保健師を目指し「地域看護学」を学びましょう！

教授 永坂トシエ

○2010年4月 大学院開学予定（設置認可申請中）

いとすぎ祭・体育祭開催

平成21年5月29日（金）に体育祭を、30日（土）にいとすぎ祭を開催しました。いとすぎ祭では、地域の方々も多数ご参加くださり、大盛況で幕を閉じることができました。



Information

■ 平成22年度入学試験日程

■ 平成21年度新任教員・職員

■ 平成20年度決算報告

■ 編集後記

いとすぎ祭

万人へ受け入れられる世界

いとすぎ祭実行委員長 3年 松山 公詩

本年度のいとすぎ祭実行委員会委員長を務めさせていただきました3年の松山公詩と申します。いとすぎ祭実行委員会の発足当初より多数の問題を抱えながらの開催と相成りましたが、非常に多数の方の応援により無事終演まで迎えることができました。



今回のテーマでもある「CROSS RING」には多くの意味が込められていました。輪が環を以て和と為し交わる。言葉遊びのようですが、その意味には多大な期待を寄せていたことも事実です。当日は例年に比べ来場者の方も多く、天気にも恵まれた日和となりました。ホスピタルクラウンの方によるパフォーマンスでは、見ている人すべてに笑顔がありました。準備を進めていた各企画の参加者の方々からも嬉しいお声を頂きました。

「すべての人に何かを受け入れてもらうことはとても難しいことである。」今回のいとすぎ祭の実行委員長

を任されるにあたって初めに思い当たったことはそれでした。しかし、だからこそ少しでも多くの人に受け入れられるよう努力をするべきであることも同時に学びました。そのために必要なものがあります。「同じ志を持つ仲間」「諦めない心」「労力を惜しまない思い」この3つはその中でも最も重要なものであると言えます。一人では何かを為すための負担が大きすぎるし、早々に見切りをつける心では一つのことに打ち込めない、労力を惜しむようでは大きなことを作り上げる障害となる。そして何より、多くの中の少しの受け入れられなかった人へフォローが出来ない。少数の犠牲の上に成り立つものは求めるべきものではないと考えております。そのために、その人のために必要な要素を取り入れて満足させられることが大きな課題ともなります。

そしてそれは、看護の道だけでなく人が生きていく上での重要な要因ともなります。参加された方がそれを感じられていたかは、その人の知ることになるでしょう。



体育祭

体育祭を終えて

体育祭実行委員長 3年 神森友紀奈

今年度も前年度に引き続きTHE☆にこりんの3年生メンバーを中心に、サークル以外の学生を含めた計22人と当日の運営を手伝ってくれるボランティアを募り、体育祭を運営しました。今年度は思うようにメンバーが集まらず、体育祭を無事に成功させることができるかとても不安に感じていました。また、今年は私が体育祭実行委員長ということでうまくみんなを引っ張っていけるのかという不安もありました。

今年度はメンバーが少なかったということもあり、去年の企画書を少しだけ変更して行うという形にしました。4月の後半から体育祭当日に向けて何度もリハ



ーサルを行い、みんなで変更したほうが良い点などを話し合い、最終的には競技の細かいルールや流れ、物品の配置や審判の配置など、細かいことまでなんとか決めることができました。

しかし、当日は朝からあいにくの天気でせっかく一生懸命企画してきたグラウンド競技はできませんでした。雨天時のリハーサルも行っていたのですが、天気予報では前々日まで晴れと予想されていたため準備が不十分であり、体育祭委員の私たちも当日の動きがしっかりと把握できていない状況でした。しかしそんな状況の中、体育祭委員とボランティアのみんなが一丸となって競技を進行してくれたおかげで、大きな問題もなくスムーズに体育祭を運営することができました。雨天時の競技は体育館で「バレー」、「蹴ってボーリング」、「玉入れ」、セミナールームで「缶つみ」を行いました。中でも最後に行った「玉入れ」は全員出場の競技ということもあり、とても盛り上がりました。「すごく楽しかったよ。」という声も聞かれ、学生の楽しむ姿を見ることができて嬉しかったです。体育祭を無事終えたときには達成感と充実感を味わうことができ、とても貴重な体験をすることができました。

最後になりましたが、一緒に運営した実行委員をはじめ、体育祭のために力を貸してくださった皆様、本当にありがとうございました。

イギリス語学研修旅行

文化のシャワーを存分に浴びた 私のイギリス研修旅行 3年 妹尾 綾子

日頃から「大学生活の間に学生のうちしか体験のできないことをたくさんしたい。」と考えていた私は、二年生の春休みに、私たちが英語の講義でお世話になっていたアントニー教授の主催するイギリスへの語学研修旅行に参加しました。

期間は3月7日から3月21日、メンバーは二年生、三年生と編入生の20人弱。少人数だったため、和気あいあいとした感じで、中部国際空港に集合した時から大学内ではほとんど話したことのなかった三年生や編入生とも自然に話に花が咲きました。

滞在先はイギリス南西部の小さな港町プリマス。そこで学生は一人ずつ分かれて一般の家庭に三週間ずつとホームステイします。私のホストファミリーは夫婦



二人で暮らしている明るく気さくな方たちで、語学学校の勉強を手伝ってくれたり、週末には広大なムーア（荒野）へのドライブに連れて行ってくれたりと本当の家族のように接してくれました。

語学学校で印象に残っていることは、休憩時間にアフリカやアラブ、中国のクラスメイトとそれぞれの国などについて片言の英語で話したこと。まるで小さな国際交流の会議のようで、それぞれの国によって異なる考え方や風習の違い、逆に家族への思いなどは変わらないことを実感しました。

また語学以外にも、イギリス赤十字支部やホスピス、老人ホームなどの見学研修もありました。ホスピス見学では、看護職の専門性が際立っていること、建物の構造やボランティアの存在、病院の規則などあらゆる面から患者の尊厳を大切にする配慮がなされていることに驚きました。他にも休日に大学の友人たちと世界遺産観光を計画して、日本とずいぶん勝手が違う交通事情に戸惑いながら歩いた日帰り旅行も楽しい思い出のひとつです。

このイギリスへの語学研修旅行では、五感でイギリスを味わい、イギリス文化のシャワーを体中に浴びることで、机上では学べない、ナマのイギリス、人々の暮らしを知ることができ私にとって学生生活の貴重な体験のひとつとなりました。



第42回フローレンス・ナイチンゲール 記章授与式に参加して 3年 大門 美咲

国歌斉唱の後、すぐ横の通路をキャンドルを手にした看護学生の列が通り過ぎ、記章の発端となったナイチンゲールについての説明がされました。それを聞きながら、当時はこのように病室を訪れたのだろうかと思像しました。第42回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式は、このように幕を開けました。記章については以前から知っていたのですが、今回のように授与式の場に参加させていただいたのは初めてのことで、とても貴重な体験をさせていただきました。恥ずかしながら記章を受章された齊田トキ子さんのことは今回

【フローレンス・ナイチンゲール記章とは】

赤十字国際会議の決議によって創設され、1920年（大正9年）ナイチンゲール女史の生誕100周年を記念し、第1回の記章が授与されました。その後も2年に1度、傷病者や（身体）障害者、また紛争や災害の犠牲者に対して献身的な活動をし、創造的・先駆的な貢献を果たした世界中の看護師に授与されている看護師の世界最高の栄誉賞です。

今年は日本人から唯一、齋田トキ子氏が選ばれ、日本での授与式に本学から5名の学生が参加しました。

フローレンス・ナイチンゲール記章

のことをきっかけに知ったのですが、看護の様々な面に目を向けておられて、世の中にはとても素晴らしい

方がいるのだと看護を目指す者の一人として憧れを覚えました。私はつい身近にばかり目を向けがちなのですが、この方のように広く視野を持つ人になりたいです。そのためにも、立派な看護師になれるよう勉学に臨みたいと改めて感じました。



ジェーン・フィッシャー氏 特別講演会

教授 竹中 美

本学は、メルボルン大学准教授ジェーン・フィッシャー博士を講師として招致し、2009年5月8日、「産後のうつ病と不安の予防；母親、父親および新生児に対する新しい心理教育プログラム」という演題で特別講演会を開催した。臨床心理士であるフィッシャー氏は、オーストラリアのクイーンズランド大学で心理学を専攻されている。日本語通訳は、グレンジャー知子さん（通訳者・国家認定機関認定）に依頼した。以下に講演の概要と感想について記す。



妊娠・出産は昔も今も女性の健康に大きな影響を及ぼしている。今回の講演会では、妊娠・出産・産褥・育児に伴う精神疾患、とくに産後のうつ病と不安障害の予防に焦点が当てられた。具体的にはオーストラリアにおいて研究・開発されたプログラムの実践例が報告された。この産後のうつ病と不安の予防介入プログラムは、妊娠・出産前に精神疾患がなかった女性について効果があることが実証されている。

プログラムの一部を紹介すると、産後6週以内の夫婦(カップル)を対象に、まず13個の質問からなるワークシートを渡す。それから、児のなだめ方といった育児の具体的な方法をデモンストレーションして話し合うこ

とから始める。次に、具体的な心理教育内容をまとめたパンフレットが渡される。内容の記述については、夫妻の心理状態を配慮した用語が使われている。例えば、母親の行う家事育児は社会通念では仕事ではないと見做されていることが多いが、ここではワークと呼び「仕事」としての価値を認める姿勢をとっている。また、「育児は母性本能が自然に導く」という社会通念に頼るのではなく、育児については誰もが新しい知識を学ぶ必要があることを伝える。心理教育活動に入ると、夫妻間の理解を促すために、洗濯、皿洗い、電話の対応等などの家事や育児にかけている具体的な時間を夫妻各々について書いてもらい、両者の差を比べ話し合う。同様に子どもができる前と後の夫妻の思いを語り合い、両者の違いやズレを考える。さらに、児が生まれたことで自分たちが得たもの失ったものを記す。このような一連の活動の後、どのような新しい家庭を作りたいか夫妻で考える。このようにプログラムは、全体としてとり組みやすく夫妻間の人間関係や児への理解が深まるよう配慮・工夫されていた。

オーストラリアと日本の状況は共通点が多く、従って多くの内容が参考になるものであった。研究結果の一部で産後うつ病の危険因子・保護因子についても触れたかったが紙面の都合上割愛した。この講演を手がかりに、国内外の研究に関心をもち 視野を広げて頂ければと思う。



大学の活動

Jane先生の講演会を聴いて

3年 天木 麻奈実

私は、この大学に入学して以来、さまざまな領域の看護を勉強しています。そのなかでも特に、母性看護学に興味をもっています。なぜかという、看護師になりたいと考えた頃から助産師という仕事にも興味があり、授業を受けるごとに多くのことを学び、ますます興味がわきました。だから、今回の講演会が開催されると知り、当日まで楽しみでした。

この講演では、Jane先生の研究の1つである「産後のうつ病と不安障害の予防」をテーマにお話されました。一般的に産後うつ病とマタニティーブルーは同じようなものと思われるがちですが、3～5日で自然消滅するマタニティーブルーとは違い、産後うつ病は、認知的・情動的症状が2週間以上続き、有効性が限定的な予防的介入が必要であり、サポートだけでなく心理学的教育も必要で、オーストラリアでは居住型早期育児支援サービスという特有なヘルスサービスがあるそうです。これは、母親に対するサービスを提供する施設で入院基準を満たした



母子が入院できるそうです。その他にも両親への心理教育プログラムがあり、日本よりも産婦への支援システムが進んでおり、当事者や医療現場だけでなく、社会的にも産後うつ病に関心を持たれているのだと思いました。産後うつ病には、さまざまな心理的リスク要因があり、ストレスともに大きく関係しています。特に、Jane先生は、講演の中で、母親になる前までの自己概念が妊産婦の産後精神病に大きな影響を及ぼすと話されました。

自己概念は、自立性、自由度、職業、人間関係などをその要素としていて、私自身が今持ち合わせている自己概念もその一部となります。このことから、将来私自身が母親になるならなにかかわらず、「自分らしさ」を大切に、今を生きたいと思います。

また、看護職者として妊産婦のメンタルヘルスケアにどのような貢献ができるのかについては、人の親となっていない今の私では、想像もつきませんし、日本のメンタルヘルスサービスのシステムもまだよく理解できていません。したがって、学内での講義やこれから始まる実習を通して、日本のシステムの現状を知り、看護学生である今の自分と看護職者になった時の自分が最大限に出来ることは何かを考え、母性看護学はもちろん、さまざまな領域の看護学を学んでいきたいと思います。

大学の活動

川嶋みどり先生の特別講演を聴いて

学部長 野口 眞弓

日本を代表する著名な看護の臨床家、研究者、教育者である川嶋みどり先生をお招きし、日本赤十字豊田看護大学特別講演会を2009年2月28日に名古屋国際会議場イベントホールで開催いたしました。「看護の魅力と可能性」と題した講演には、本学学生および教職員、実習施設の看護師など約1200名の参加者がありました。川嶋先生も多数の聴衆に感銘を受けてみえました。

川嶋みどり先生は、1951年に日本赤十字女子専門学校をご卒業後、日本赤十字社中央病院勤務、中野病院看護婦教育顧問を経て、1984年より健和会臨床看護学研究所長、2003年より日本赤十字看護大学教授、2006年より看護学部長を務めておられます。長年にわたり看護技術論の発展に尽力され、臨床の経験知から科学的根拠をもつ技術へという、実践と理論の連環を追求されました。そのご功績により、2007年、看護師にとって最高の栄誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を受章されました。

ご講演では、「垢だらけの少女の生命を救った清拭」などのご自身の経験を例に引いて、生活行動を援助す



る看護ケアが患者の持つ自然治癒力を高めること、また、看護師の心に残る臨床の体験から実践や研究上の仮説を導き得ることを説明されました。最後に、看護本来の輝きを発揮するには、道を切りひらく気概を持って能動的に行動する必要があること、説明できる看護の実現には、普通の言葉で語り、経験知を尊び、その科学的根拠を探ることが重要であることを強調されました。なかでも、「困難を引き受ける者が最も成長する」というメッセージは私の心を打ちました。

今回のご講演では主な聴き手として看護学生を意識されたそうですが、川嶋先生のお話は、学生に限らず聴く者それぞれの経験や関心を引き起こし訴えかける力に溢れており、私にとってこの日は、看護の原点に戻って考えることの重要性をあらためて確認することができた有意義な一日になりました。

オープンキャンパス2009

7月25日(土)、8月22日(土)にオープンキャンパスを開催しました。

両日あわせて約600名の参加をいただき、模擬授業や学食体験、入試、学生生活、在校生との相談コーナーなど、多くの受験生と保護者の皆さんで学内が賑わいました。当日の様子をご紹介します。



ようこそオープンキャンパスへ



呼吸の音、聴こえるかな？



模擬授業「あかちゃんの抱き方、寝かせ方」



毎年好評の在校生との相談コーナー



模擬授業「血圧測定」

高齢者の誤嚥について

講師 小林 尚司

平成21年7月11日(土)に、公開講座「高齢者の誤嚥について」を開催しました。

当初、定員を20名程度と考えておりましたが、ホームページなどで公開講座の案内をしてまもなく、受講の申し込みが相次ぎました。実は、豊田市の広報に掲載される前には、すでに定員の20名を超える申し込みがあり(!)、本学担当の企画課の方が私のところに「定員をはるかにオーバーしていますが、どうしましょう」と相談に来られました。

予想以上の反響にびっくりしましたが、市民の方々の、誤嚥に対する関心がとても高いことを感じました。そこで、希望される方には全員参加していただくことを一番に考え、参加人数によって、会場や内容を調整して行うこととしました。



開催1週間前になって、およそ60名程度が参加予定ということがわかりました。そこで、教壇と受講者の距離が遠くならないように中講義室として、少しは何かの実習を含めた内容にすることにしました。当日は、54名の方が参加されました。



講座の内容は、嚥下のメカニズム、誤嚥性肺炎の実態、トロミ剤の体験、嚥下体操の体験です。

嚥下のメカニズムについては、骨格標本や解剖図を用いて解説し、自分の頸部に触れながら、嚥下運動をしてもらいました。嚥下は、少しわかりにくい運動ですが、しっかり理解していただいたと思います。

誤嚥性肺炎の実態は、年齢階級別の死因のデータや口腔ケアと肺炎発症率の関連のデータを読み解きながら、不顕性誤嚥や肺炎の原因菌も学びました。

トロミ剤や嚥下体操の実習は、皆さんとても真剣に取り組まれていました。

講座の最後には、テストを実施し、講座の内容の理解度をチェックしていただきました。講座開始時に、「最後にテストをします」と申し上げたところ、皆さんちょっと戸惑っていらっしゃいましたが、テスト中の表情は真剣そのものでした。5分間で5問の小テストですが、教室内がピリッとした空気に包まれました。

全体を通して、理論的にも詳しく、学部の授業に近い内容になりました。あっという間に1時間45分が過ぎました。参加された皆さん、お疲れ様でした。

お知らせ

公開講座2009のお知らせ（10月～3月）

今年度の公開講座は『学んでまろう!『みんなの健康』』をメインテーマとして開催しています。10月以降は下記の2講座を開催します。参加は無料です。是非、お気軽にご参加ください!

講座名・担当	日時・場所	内 容	人 数
第二回 生活に笑いとうーモアを 担当領域：基礎看護学 担当者：杉浦美佐子教授	平成21年10月24日(土) 10:00～12:00 本学	健康と笑い、うーモアの関係について講話をします。その後、笑い、うーモアを具体的に生活に取り入れる練習をします。(第一回と内容は若干異なります。)	50名程度
赤ちゃん楽しくふれあおう! ベビーマッサージ 担当領域：母性看護学 担当者：野口眞弓学部長	平成22年1月23日(土) 10:00～12:00 本学	妊婦あるいは出産後の女性とその家族とベビーマッサージに興味のある人にベビーマッサージを教えます。	10組

お申し込みは

ホームページ <http://www.retoyota.ac.jp>の申し込みフォームからお申し込みいただくか、氏名・住所・連絡先・参加希望講座を明記の上、日本赤十字豊田看護大学 企画・地域交流課までFAXでお申し込みください。

**お電話でのお申し込みも
承っております。**

お問い合わせ

〒471-8565
豊田市白山町七曲12番33
日本赤十字豊田看護大学 (企画・地域交流課)
TEL 0565-36-5228 FAX 0565-36-5256

村 地 文 庫

司書 中尾 明子

本学初代学長、村地俊二先生が寄贈下さった本の整理が済み、図書館のブラウジングコーナーに重厚な書棚がしつらえられました。147冊の本が収められた書棚には、村地先生ご自身の著書をはじめ、先生が訳された本、先生に寄せられた著者（おそらく村地先生を慕われたご後輩）からの恵贈本、先生が学ばれたドイツ語・英語の医学書などが、並んでいます。

丁寧かつ大切に扱われ、時代をくぐり抜けてきた本は、村地先生のまじめなお人柄をうかがわせる十分な証と言えましょう。例えば、村地先生が学ばれたと思

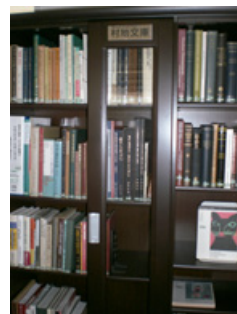


われる医学書「骨骸筋のトーンス及び疲労の研究」（中西政周；1944，金原商店 ※ちなみに定価は三円二十銭）を開くと、写真ではわかりづらいかも知れませんが、端正な字でメモが書き込まれています。当館所蔵の「東大合格生のノートはなぜ美しいのか？」（太田あや；2009，文藝春秋）に相通じるものがあるかも知れません。

また、恵贈された書物には送り状が丁寧にはさまれていたり、展覧会で求められたと思われる画集には入場券の半券、大相撲の本には取組表が添えられていたりするのです。それはそのままの状態で保存することにいたしました。

村地文庫は図書館員に声をかけて下されば、どなたでもご覧いただけます。

ようこそ、村地前学長Worldへ。



研究の窓

保健師を目指し「地域看護学」を学びましょう！

地域看護学教授 永坂トシエ

保健師の活動は、生活を基盤にして行われ、家族を1つの単位としてとらえ、生まれたばかりの子どもさんからお年寄りまで、病気で在宅療養をしている人はもちろん健康な人や病気から回復して社会復帰を目指す人、そして障害をもちながら生活する人まで、さまざまな年齢層・健康レベルの人々が対象となります。

個人に提供する看護サービスは、疾病の回復や在宅生活を支えるための安全・安楽やQOLを考えた直接的なケアから、生きがいや役割を考えた健康の保持・増進のためのセルフケア能力を高める保健指導を行っています。



また、集団や地域を対象にした活動は、健康教育の開催から療養環境を整えるためのネットワークづくり、そしてセルフヘルプ・グループや健康づくりのための仲間づくり、保健、医療、福祉の社会資源や保健事業の見直しや創設まで幅広い活動を行います。地域の人々の健康への意識が変わり、サポート体制が取れるような人と人との関係作りのための教育や学習の機会をつくり、地域の人々が主体的に自分たちの生活のあり方を選び実践できるように支援します。今抱えている顕在化した健康問題の解決だけでなく、これから起こることが予測される潜在的な健康問題に対しても予防的に関わるのが特徴となります。この活動は、常に個人や地域の健康状態の向上を目指しています。

活動方法は、家庭訪問、相談、面接、ケアマネジメントから健康教育や地域組織活動等を行います。対象の「ニーズ」に合わせた活動により保健師活動の充実感を味わうことができます。是非、保健師の資格をあなたの手に！

2010年4月 大学院 開学予定(設置認可申請中)

2010年4月に大学院看護学研究科の開学を予定しています。

■教育目標

赤十字の基本理念に基づき豊かな人間性を持ち、あわせて研究を通して培われた深い学識を持つ研究・教育者と、高度な実践力を備えた看護専門職者の育成を目指します。

■教育課程

看護管理学・臨床実践看護学（成人急性期看護学、母性看護学、精神看護学）・地域生活看護学の3領域・5分野を設置し、目的別に、①研究・教育者コース②専門看護師コース（母性看護・精神看護）の2コースを設置します。

■入学定員及び入学資格

定員：10名

資格：

1）学士取得者と2）本学大学院において個別の入学資格審査によって大学を卒業した方と同等以上の学力を認められた方についても受験資格があります。

※2）に該当する方は出願の資格認定審査を行います。

■問い合わせ先

日本赤十字豊田看護大学

大学院設置検討委員会事務局

T E L 0565 (36) 5111 (代表)

詳細については事務局へお問合せください。なお、上記の内容は予定のため、変更する場合があります。

Information

日本赤十字豊田看護大学 平成22年度入学試験日程

試験の種別	出願期間	試 験 日	合格発表
一般入学試験	平成21年12月14日(月) ～平成22年1月22日(金)消印有効	平成22年1月30日(土)	平成22年2月5日(金)
日本赤十字社中部各県 支部長推薦入学試験	平成21年10月26日(月) ～11月4日(水)消印有効	平成21年11月21日(土)	平成21年11月27日(金)
高等学校長推薦入学試験 (公 募 制)	平成21年10月26日(月) ～11月11日(水)消印有効		
社会人特別選抜入学試験			

平成21年度新任教員

教 授	西 片 久美子	老年看護学	4月1日付	助 教	竹 内 貴 子	基礎看護学	4月1日付
	竹 中 美	母性看護学	4月1日付	助 手	岡 田 武	成人看護学	4月1日付
	水 溪 雅 子	精神看護学	4月1日付	助 手	澤 田 理 恵	小児看護学	4月1日付
	長 江 美代子	精神看護学	4月1日付	助 手	長谷川 真 美	地域看護学	4月1日付
	永 坂 トシエ	地域看護学	4月1日付	平成21年度新任職員			
准教授	前 田 節 子	基礎看護学	4月1日付	学生・キャリア支援係長	大 渡 佳 世	学務課	4月1日付
講 師	興 水 めぐみ	地域看護学	4月1日付	経理課主事	横 田 公 徳	経理課	4月1日付

平成20年度決算報告（消費収支計算書）

平成20年4月1日 から 平成21年3月31日 まで

消費収入の部 (単位：円)			
科 目	予算額	決算額	差 異
学生生徒等納付金	898,400,000	899,150,000	△ 750,000
手数料	17,315,000	16,097,500	1,217,500
寄付金	31,000,000	17,100,886	13,899,114
補助金	120,048,000	90,145,043	29,902,957
国庫補助金	120,000,000	90,097,000	29,903,000
地方公共団体補助金	48,000	48,043	△ 43
資産運用収入	19,540,000	25,901,736	△ 6,361,736
事業収入	6,030,000	6,667,600	△ 637,600
雑収入	1,810,000	4,169,103	△ 2,359,103
内部取引	3,608,000	9,214,279	△ 5,606,279
帰属収入 合計	1,097,751,000	1,068,446,147	29,304,853
基本金 組入額	△ 21,459,000	△ 7,713,290	△ 13,745,710
消費収入の部合計	1,076,292,000	1,060,732,857	15,559,143

消費支出の部 (単位：円)			
科 目	予算額	決算額	差 異
人件費	598,340,000	517,756,616	80,583,384
教育研究経費	528,936,000	481,014,167	47,921,833
管理経費	53,581,000	44,889,802	8,691,198
資産処分差額	0	740,548	△ 740,548
内部取引	63,171,000	63,451,897	△ 280,897
予備費	0	0	0
消費支出の部	1,244,028,000	1,107,853,030	136,174,970
当年度消費支出超過額	△ 167,736,000	△ 47,120,173	
前年度繰越消費収入超過額	586,945,000	864,670,214	
翌年度繰越消費収入超過額	419,209,000	817,550,041	

平成20年度の財務状況は、大学院設置経費 47,175,000円の内部取引による支出のため、支出超過となりました。

編集後記

「いとすぎの丘」Vol.10では、本大学での様々な取り組みの中から、例年の活動である公開講座、いとすぎ祭、オープンキャンパスなどに加え、ナイチンゲール記章授与式、国内外招致の講師による特別講演会について紹介しました。さらに、社会のニーズに応える看護専門職の育成と発展を目指し、平成22年開設予定の大学院の概要にも触れました。今後も、地域に根ざした大学として社会貢献できるよう努力していきたいと考えております。

本冊子が無事発行できましたことは、皆様のご協力あつてのことと心より感謝申し上げます。

いとすぎの丘 Vol.10

発行日／2009年10月

編集・発行／日本赤十字豊田看護大学

広報・公開講座委員会、企画・地域交流課



〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228 FAX 0565-37-8558

E-Mail info@rctoyota.ac.jp

HP http://www.rctoyota.ac.jp